

パネル式防護柵とは

法面より発生する落石から通行車両・歩行者を保護するパネル式の仮設安全防護柵です

従来の方は道路改良工事や法面修復工事で法尻に H 鋼杭を設置し、その間に鋼矢板を溶接又はボルトを使用して取り付けていました。本技術では専用固定金具を利用して支柱にパネル材を取り付けることにより防護柵の設置・撤去の作業性を大幅に向上させることが出来る方法です。

特徴としては次の 3 点になります。

1). 施工性の向上。

溶接作業が不要で、ボルトで締め付けるため特殊な技術を必要とせず、支柱にガイドポストを挟み込む構造なので支柱の打ち込み誤差を吸収でき施工性が向上するために用途では緊急性の高い現場に適しています。

2). 防護柵の構造として連結性が高く、衝撃に強い。

支柱に添えたガイドポストにより、パネルの連結性が高く落石の衝撃に対する強度が向上しています。

3). リサイクルが可能で、また景観が向上します。

使用する支柱・ガイドポスト・パネル材は全てリース品なのでリサイクルが可能で廃棄物が発生しません。また、鋼材特有の錆び色と違い設置による景観も向上します。

従来の方



H 形鋼支柱に鋼矢板を溶接で取り付けています。

パネル式防護柵の方法



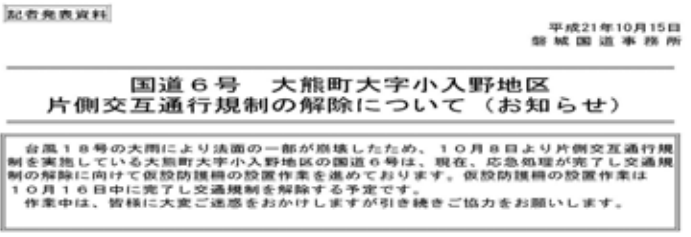
基本的な構造 支柱間隔 @=3.00m
設置高さ h=3.00m ~ 6.00m まで
使用部材 H-200 ~ H-300 程度
想定する落石の大きさは ≈30cm 程度です。

崩落災害発生時に使用された例



**設置例.1
国道 121 号
の災害**

南会津で発生した落石災害
この場所では、の支柱打ち込み
タイプで設置しました。



- 設置例.2
国道 6 号の崩落災害
設置が容易である、山留め
組み立てタイプで対応しました。**
- 場所 国道6号 大熊町大字小入野 (251, 2km)
・ 通行規制解除予定箇所 (別紙)
・ 現在の作業状況写真 (別紙)
 - 解除予定 平成21年10月16日夕方



国道 6 号の交通規制資料 HP より

福島民報提供記事 平成 18 年 8 月 11 日



**設置例.3
県道いわき石川線の災害**

**土砂崩れの県道いわき石川線
片側交互で通行再開
22日ぶり**

土砂崩れの完全回復に通行止めが
行止めた。い、解除され、重車車の観光
わき市田入町在の県道 客車大車車の運送手らが
いわき石川線 通称・即 高き山側の落石防護柵を
落石防護柵が十日、片側 気にながら次々と通過
交通通行を開始した。二した。

七月十九日に起きた崩
落箇所約百十メートル、
六町の崩落箇所約六十
メートルの二箇所、片側交互
通行が再開。今後は崩
落箇所を修復、本格的に
復旧工事を進める方針
である。

この日は通行再開を前
に重車車やトラックが列
をくみ、午前十時、
わき市側から通行可能
になった。いわき市側
が、地帯や地帯を調査し
、崩落箇所を修復し、
片側交互通行がはじ
まる。いわき市側は、
崩落箇所を修復し、
片側交互通行がはじ
まる。いわき市側は、
崩落箇所を修復し、
片側交互通行がはじ
まる。



法面工事施工中の設置状況



工事中に発生した落石

福島県のいわき市で平成 18 年 7 月に大雨のため発生した土砂崩落災害で通行止
めになった県道の復旧工事で使用した写真です。 工事期間中に落石がありました
が通行に影響を与えることもなく無事に防護柵の役割を果たし県道が開通しました。